

今年125周年を迎える中央大学。125周年の歴史の中には、様々なエピソードが存在します。中央大学創立125周年記念サイトでは、「歴史で辿る中央大学」として、本学の歴史にまつわるエピソードを紹介しています。今まで知らなかった中央大学の新たな一面を発見してみたいか？

[Campus] 神田から多摩への軌跡

1977
「昭和52」

中大新世紀の開幕 多摩校舎竣工



竣工当時の多摩校舎

創立90周年の1975年、多摩校舎の建設を開始。駿河台キャンパスにおける、都市環境の悪化、インフレーションによる学生生活の圧迫、学生数の急激な増加による教育研究環境の改善のためである。多摩キャンパスの計画は以前からあり、当初教養課程の授業を集中させるという方針だったが、これは大学紛争のため行き詰まった。さらに折からのオイルショックで財源不足に見舞われ、駿河台キャンパスの売却を余儀なくされ「法・経・商・文」4学部の全面移転となった。1977年、21世紀にふさわしい大学をめざすという改革を託し、緑に恵まれた多摩校舎竣工。2000年には多摩モノレールが全線開通。駅がキャンパスに直結し通学の利便性は飛躍的に高まった。

Time Machine Topics 【日航機ハイジャック事件】

バリ発東京行きDC8型機が日本赤軍に乗っ取られた。犯人と犯人に要求された釈放犯6人はアルジェリアに投降、人質は解放された。この年、王貞治、通算本塁打756号を達成。

125周年記念サイトではこの他に、「わたしと中央大学」というコンテンツで、各界で活躍中の本学にゆかりのある方のエピソード紹介や皆さんからのエピソード投稿も受け付けています。ぜひ、皆さんのとってきおきのエピソードを投稿してみてください。

中央大学創立125周年記念サイト <http://chuo125.jp>

編集室

「国際化」推進座談会を読んでもう一度読んでみましたか。どのように感じられたでしょうか。今日の時代は、日本を知らずして世界を語れず、世界を知らずして日本を語れず、だと思います。座談会がみなさんの国際的マインドを触発することになってくれれば、幸いです。

ところで、海外に留学する日本人学生が減っているという話には少々びっくりしました。座談会でもいくつか理由が指摘されていますが、私には次のやりとりが印象的でした。

◇ **ヘッセ** 今の学生は「できない」とよく言います。たぶん、荒井さんの時代は、「できないけれども、がんばります」と言いましたね(笑) **荒井** その通り。

◇ **ヘッセ** 今はできるけれども、「できない」とよく言います。

◇ どうやら現代学生は、一般に目の前にチャンスがあってもトライしないという風潮にあるようです。キャンパスライフを楽しむことには専心しても、リスクを負ってチャレンジする気概に欠けているようです。

他方、韓国、中国の学生の旺盛な進取の精神には圧倒されそうです。この彼我の差をみると、大袈裟なようですが、「日本危うし」と心配してしまいます。

ガツガツせず、堅実志向の若者を「草食系」と言うそうですが、それはさておいても「志」は忘れて欲しくないと思います。「国際化」もまた、心の持ち方如何で大きく変わってくと強く感じた次第です。

(編集長 伊藤博)

学生記者が取材・編集する大学広報誌

Hakumon

Chuo
ちゅうおう

2010

夏季号

2010年(平成22年)7月1日発行 No.217

発行 中央大学広報室

〒192-0393
東京都八王子市東中野742-1

〈編集担当〉

『Hakumonちゅうおう』編集室

☎042-674-2048

印刷 泰成印刷株式会社
〒130-0026
東京都墨田区両国3-1-12
☎03-3631-8141